

2021 年度日本認知症ケア学会・認知症ケア賞 功労賞



今 井 幸 充 (いまい ゆきみち)
医療法人翠会 和光病院

【授賞理由】

今井氏が取り組んできた認知症の人のいっもどおりの生活を支えるという考えは、いまやわが国のみならず世界的な認知症ケアのあり方の基本となり、一般的な治療に重きを置く姿勢とは一線を画した非常に重要な思想を築いたといえます。

これらの活動は、認知症ケア賞（功労賞）受賞が相応しいといえます。

【略歴】

1984 年 4 月～2001 年 6 月まで	聖マリアンナ医科大学神経精神科
1986 年 7 月～1987 年 8 月まで	米国ブロッツトン VAMC
1994 年 7 月～1996 年 3 月まで	シアトル州立ワシントン大学
2001 年 7 月～2012 年 9 月まで	日本社会事業大学大学院
2012 年 10 月～現在	医療法人社団翠会 和光病院

【活動内容等】

活動目的：

認知症ケアの普及と教育制度の確立

2000 年 4 月から介護保険制度導入され、そこで介護福祉士と同様に認知症ケアの専門性を確立するために本学会を創設。その後、認知症ケア専門士、認知症ケア上級専門士を世の中に輩出する認知症ケア専門士制度を創設し、本学会が認知症ケアの質向上とケア専門士教育などの社会活動を目的とした学会に育てる。

活動の特徴：

聖マリアンナ医科大学精神科入局以来、長谷川和夫教授のもとで認知症の診断と治療に関する研究をつづけ、2000 年には日本認知症ケア学会を創設した。その後、本学会の会員数が約 3 万人、また認知症ケア専門士も 3 万人を超えるまで発展した。そしてこの制度は、今や他の学会の専門士制度の模範となっており、成長、発展を続けている。また認知症ケア専門士は、各地域で自分たちの活動組織をつくり、連絡を取りながら地域に貢献している。この学会は、近年最も活発な活動を行っている学会に成長したと信じている。

活動の効果・影響：

超高齢時代の大きな課題は、認知症の人の社会支援である。これまでは、認知症の行動障害の対応や ADL のケアなど、その病態に着目したケアに主眼が置かれてきた。今や認知症ケアは、認知症の人も社会の一員として、住み慣れた地域で末永く安心して、安全に暮らすことができるように支援するケアに変革されてきた。このように認知症の人のケアの考えに大きな影響を与えた一端を認知症ケア学会が担っていると信じる。

今後の活動予定：

認知症ケアの質向上のための教育改革，社会制度改革，超高齢化社会のより良い暮らし，など認知症の人を含めた高齢者の豊かな暮らし構築のために学会が活動すべきである。私自身も高齢であり，実際の活動は後世に託すが，この学会が学術会議の色合いよりも社会活動の色合いを持った学会に発展することを祈願する。

その他：

約 40 年にわたり，認知症に関する研究，執筆，講演活動を行ってきたが，未だ自身の活動は続いている。今，最も力を入れているのが，認知症医療であり，認知症専門病院での認知症ケアの実践である。和光病院では，「ケアも治療の一環」を合言葉に，認知症の人のケアが最良の治療になることを目指し，日々認知症の人と向き合っている。